



子どもたちの成長を喜び合う一年に

校長 寺川 利幸

平成28年が始まりました。今年度も、保護者、地域の皆様と子どもたちの成長を喜び合う一年にしたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

本校は18日に始業式を行い、3学期をスタートいたしました。子どもたちは、笑顔で元気に登校しています。しかし、20日は大雪となったため臨時休校としました。今後も悪天候やインフルエンザの流行などに対応し、子どもたちの安全確保を図ってまいりますので、ご協力をお願いいたします。

さて、北海道では、子どもたちのために基本的生活習慣を確立することが重要となっています。1月16日に名寄市民文化センターで「北海道の子どもたちの学力について考える会 in なよろ」が開催されました。保護者や地域の方々を含めて160名ほどが集まり、講演や名寄市の子どもの実態を聴き、話し合いを行いました。講演の概要をお知らせします。

演題「基礎学力の育成と望ましい学習習慣、生活習慣の定着について」

旭川赤十字病院 小児科 諏訪 清 隆 氏

今の子どもたちに必要なものは自己有用感です。子どもたちが「自分は誰かの役にたっているんだ」と感じることができる機会を与えてください。また、テレビやスマホよりもっと楽しい体験や家族で過ごす機会をたくさんつくってあげてください。

さて、北海道の小中学生は、ゲーム・ネットを長時間使用していて、日本のトップクラスです。その影響がいろいろなところに現れていると考えられます。例えば、

- ①体力低下が止まらない。(特に脚力)
- ②小中学生の視力1.0以下の割合が増加している。
- ③慢性的な寝不足状態である。
- ④就寝時刻が遅いため、朝起きられない、朝食を食べられない割合が多くなっている。
- ⑤ゲーム中は、「見ている」という場所の脳は動いている。「感動する、想像する、考える、人の気持ちかわかる、ここが起きる」場所の前頭前野が動いていない。
- ⑥ネット依存が起きている。インターネット・オンラインゲーム依存はコカインなどの麻薬中毒と同じような脳内ネットワーク障害を起こしている。
- ⑦ネットトラブル、ネットいじめが起きている。

子どもたちは「社会に与える影響」を判断できる社会力が未熟です。スマホ・ネットは大人の社会です。対話する力(自分の都合ばかりを言わずに相手の意見を聞ける)や自分の体と心を守る力(電子メディアの時間を制限できる、自分の責任能力を自覚し保護者に相談できる、自分が守るルールを提案できる)が育つのを待たなければいけません。

保護者の利用目的は子どもとの連絡です。小学生の利用目的の1位はゲーム、2位は動画、3位はLINEです。中学生のスマホの利用目的はツイッター、LINEです。携帯は保護者の物、子どもは借りているだけで、名義や支払いは保護者がしています。つまり保護者が管理するものであることを保護者と子どもの両方が認識しておく必要があります。

まず、通話機能のみから開始し、ネット利用は中学生以上で相談してから始めるのがよいでしょう。フィルタリングや時間制限機能を利用し、子どもの発達、成長に悪影響が出ないように見守り、コントロールして予防しましょう。子どもを守り、関係を損なわないようにして、子ども自身が自立して行動できるようにサポートすることが大切です。

○ゲーム・ネットなどのメディア対策を始めましょう

- ①私たちが正しい知識をもって手本となる
- ②メディア使用させるとき、もう一度考える
- ③祖父母も含めた家族の協力
- ④メディア使用を見直すきっかけをつくる ~生活リズム表、学校でのアンケートなど
- ⑤園や学校、家庭、地域での取組

・考える場をつくる・人を相手にする遊び・五感を使った遊び・年中行事への参加

○ゲーム →親のゲームを貸す形が望ましい→持たせるときは必ずルールを決める。

- ①食事中はしない
- ②夜10時以降はしない
- ③外にはもって行かない。
- ④使用時間
- ⑤ルールを守れなかった時のペナルティ 例 1週間の使用禁止など

○アウトメディア できることから始めよう→接触時間 1日2時間以内

- ①食事の時はテレビOFF
- ②朝はテレビOFF
- ③番組が終わったらテレビOFF
- ④月に1日〜日中メディアなしの日

○子どもたちに守ってほしいこと(ネット)

- ①誰もが見ることができるサイトには、個人が特定できる情報は書き込まない。
例 学校名 本名 住所 メールアドレス
- ②LINE IDを公表しない
- ③「無料」の言葉には要注意~まず疑う
- ④誤って入ってしまったサイトからの「退会手続き」や「高額請求」には対応しない
- ⑤トラブルには絶対自分一人では対応しないで家族や先生に必ず相談する